

会議の要旨（議事録）

会議の名称	第3回鳥栖市総合計画審議会		
開催日時	平成27年11月30日(月)	開催場所	鳥栖市役所 2階第2会議室
出席者数	委員 6人 事務局 3人 市 8人	傍聴人数	0人
議題	1. 開会 2. パブリック・コメントへの対応について 3. 第6次鳥栖市総合計画後期基本計画（案）[最終稿]について 4. 答申 5. 市長あいさつ		
配布資料	・会議次第 ・資料1 パブリック・コメントへの対応について ・資料2 第6次鳥栖市総合計画後期基本計画（案）[最終稿] ・資料3 第6次鳥栖市総合計画後期基本計画（案）概要版		
所管課	（課名） 総合政策課 （電話番号） 85-3511		

第3回鳥栖市総合計画審議会 議事録

1 開会

事務局（総合政策課長）

- ・ 本日は、最後の審議会でございまして、パブリック・コメントへの対応及び第6次鳥栖市総合計画後期基本計画（案）[最終稿]についてご審議いただきたい。

2 パブリック・コメントへの対応及び第6次鳥栖市総合計画後期基本計画（案）[最終稿]について

（事務局） パブリック・コメントの概要、提出意見（1件）の内容説明及びそれに対する市の考え方の説明

第6次総合計画後期基本計画（案）[最終稿]の説明（主に前回2回目審議会からの変更点（リーディングプロジェクトの修正、P54の潜在的保育ニーズの内容追加））

（戸田会長） これらの説明についてなにか意見等がありますか。

（戸田会長） 第6次総合計画後期基本計画（案）[最終稿]のP54の潜在的保育ニーズについてですが、これは簡単に推計できるものなのか。どうやって推計したのか。

（事務局） 子育て世代へのアンケート調査によるもの。

（戸田会長） 待機児童として上がってくる数字ではなく、考えるべきはこういう推計まですべきであると思うので、内容に追加されたことはいいことだと思います。

（戸田会長） パブリック・コメントへの対応はこの文章で公開するのか

（事務局） そのとおりです。

（芹田委員） パブリック・コメントへの対応の中で、管理会計に対する意見への市の対応についてですが、市としての立場は説明されている通りだと思うのですが、いかに市民側に分かりやすく見えてくるのが重要。

（中村委員） 後期基本計画（案）についてですが、いくつか重複する言葉が出てきていたのですが、分かりやすい文章になっていた。行政用語ではなく。

（戸田会長） それでは、この計画（案）[最終稿]を本審議会の答申内容としたいがよろしいでしょうか。

（委員一同） 異議なし。

（戸田会長） 8月27日の第1回審議会から3か月間、審議員の皆様大変お疲れ様でした。これまでの審議を踏まえ策定した計画（案）を「答申」という形で市長にお返しすることとなります。この後、議会の議決を経て新たなまちづくり計画として策定・実行されることとなります。

今後は、審議委員の皆様がまちづくりの「主役」である市民であったり、本計画に携わった1人として、この計画に基づく鳥栖市の新たなまちづくりに関心を持っていただき、本計画の推進力となってまちづくりに力を貸していただければと思います。

委員の皆様、大変お疲れ様でした。

（事務局） それでは、引き続き、鳥栖市総合計画審議会の皆様から市長へ後期基本計画（案）について答申をお願いしたいと思います。審議会を代表して戸田会長より答申お願いいたします。

～総合計画会議を代表して、戸田会長から橋本市長へ答申書を提出～

- (事務局) 続きまして、審議委員の皆様からも一言ずつ感想やご意見をいただきたいと思います。
- (戸田会長) みなさん、ありがとうございます。3カ月という短い期間でしたが、中身の濃い議論ができたと思います。ぜひ、総合戦略も含めて鳥栖市の将来にいい形で結びついていっていただければいいなと思います。
- (増田副会長) 区長連合会の会長として地域で活動しておりまして、今回皆さんの意見をたくさん聞かせていただきました。この計画が出来れば、地域での活動が色々出てきますので、皆さんに協力を仰ぎながら地域密着で頑張っていきたいと思えます。
- (中村委員) 観光の立場から参加させていただいて、実際にたくさんの方が鳥栖を訪れているわけで、今回こういう委員をさせていただき、では観光に従事する者としてどういう背景で、どういうふうなご案内すべきか見直す良いきっかけとなりました。また、経営者としては、小さな子供を抱える女性の働く環境が充実している企業が増えてくれればいいなと思いました。
- (藤委員) 子育て支援の立場から参加させていただきました。親が安心して子育てできる環境づくりが一番重要で、5年後待機児童をゼロにすることは難しいことだと思いますが、ぜひ取り組んでほしいと思います。潜在的保育ニーズを市は、きちんと把握しながら、それを解消できるような状況を作ってください、そうすれば、若い世代の方たちは、鳥栖に住んでよかったと思ってもらえるようになるはずです。ありがとうございます。
- (能本委員) 外部有識者という立場で参加させていただきましたが、事務局側に座ることが多かったので、委員の立場で初めて参加させていただきました。鳥栖市は、非常に住みやすいまちというのと交通の要衝として発展してきた九州の産業の要の都市というイメージがありまして、そういう2面性があるのかなと思います。今回、総合戦略及び総合計画ダブルで策定することはたいへんご苦労だったと思います。
- (芹田委員) 一番大きな計画の策定に参加させていただき、いい勉強となりました。今回、携わったことで、少なくともこれからの5年間は、「鳥栖市はこういうことをやっているんだよ」ということを私たちの口からも市民のみなさんに届ける役割をいただいたのかなとも思っております。また、市役所は市民一人ひとりの生活に身近なものであると思うので、市民との距離感が近づけば、鳥栖市の発展につながっていくと思います。今後そのお手伝いが少しでもできればと思っております。
- (事務局) 最後に市長から有識者会議の皆さまにご挨拶いたします。
- (橋本市長) 先程戸田会長から答申をいただきまして、改めて皆さんのご期待に沿えるよう気を引き締めていきたいと思っております。8月27日に諮問をさせていただいて、短期間で熱心に審議し、ここまでまとめ上げていただき、改めて感謝申し上げます。また、委員の大半の皆様が参加いただき、九州経済調査協会のみなさんの力をいただいて作りました“鳥栖発”創生総合戦略ですが、これも総合計画の中に組み込んでおり、より実行性の高いものになったのではないかと思います。今後ひとつひとつ実現させることが我々に課された職務でありますから、精一杯取り組んでいきたいと思えます。今後もそれぞれの立場からご指摘をもらいつつ、より実現性のある計画・施策を打ち出していきたいと思っております。

また、「家庭」への市の関わり方ということですが、大変重要なことだと思っております。社会における収入の面での二極化、子どもたちの貧困の問題、大変深刻な場面が出てきています。それらにどう我々が関わっていくべきか難しいところでもあります。特に貧困に起因する虐待等の課題もありまして、その多くが自分の親からの虐待等でありますので、なかなか表に出てこない事例が多く存在しています。しかし、あまり行政が関わり過ぎると、「基本は家庭」というところから逸脱してしまいます。将来的にはそういった問題を極小化していくためには、鳥栖市の特徴はやはり働く場をたくさん作るということでありまして、そこで、何か足りないものを支援することで「鳥栖に住んで良かった」と思っただけのような、また「鳥栖に生まれ育って良かった」と思っただけのようにしていくことが我々の職務だと考えております。本日はどうもありがとうございました。

(事務局) それでは、鳥栖市総合計画審議会を終了させていただきます。